



板目木版画『388 横臥図』(83cm × 100cm)。

かわいいあのこに魅せられて

で観る者を感嘆させている。

描かれている場面も、搾乳中の何気ない立ち姿やべったりと長い舌を出してくつろいでいる姿

がなんとも愛らしい。日常的に接しているからこそとえられる牛の表情が、その作品世界を唯一無二のものにしている。

富田さんが初めて北海道を訪れたのは、美大の3年に進級する前の春休みのこと。好きな登

山の資金を貯めようと、士幌町の酪農アルバイトに応募した。

「初めて牛を見たときは、ただただビックリ。思つた以上に大きいし、世話をしていると糞が

飛んでくる(笑)。なんだこれ

は?」というのが正直な第一印象でした。でもそのとき面倒を見

た牛の中に頭だけ、すごく人な

つっこいコがいたんです。牛舎の掃除をしていると寄つてきたり、

作業中の私の肩にずんと鼻面

をのせたりする。撫でるとすこ

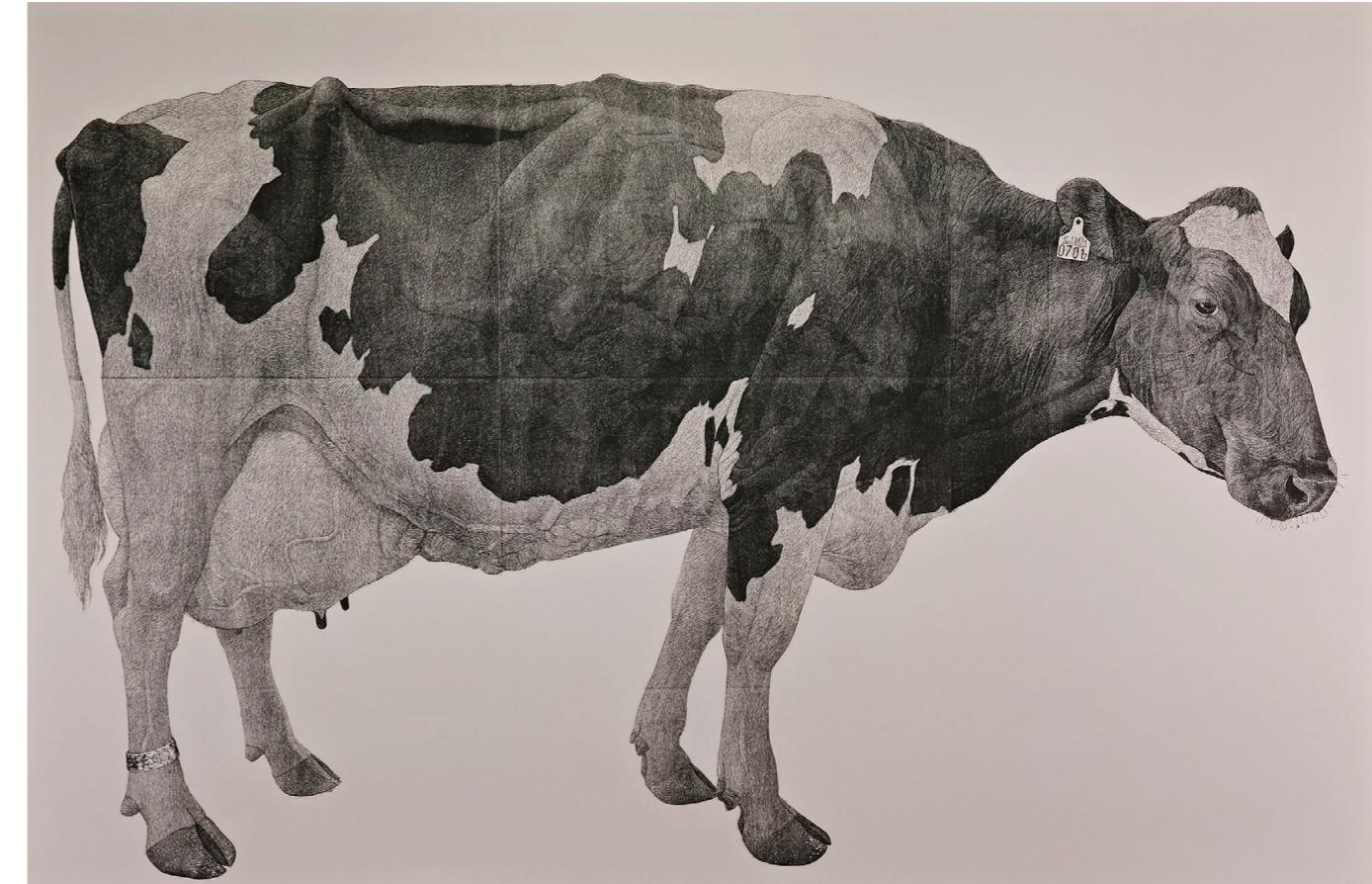
く気持ちよさそうな顔をして

くれて、「かわいいな、牛」と思いました。あのコがいなかつたら、ここまで牛を見つめてこなかつたかもしません」

以来、牛の木版画に取り組んできた富田さん。美大を卒業後、一度はジユエリー制作会社に勤めたが、「やっぱり牛の仕事が好きだし、作品をつくる時間が欲しい」と半年で職場を辞め、再び北海道へ。興部町で本格的に酪農の基本を習得し、仕事仲間の紹介で2007年に初めて小清水町の地を踏んだ。



原田農場で勤務中の富田さん。小清水町は家畜糞尿を堆肥にする耕畜連携システムが確立されており、規模は小さとも酪農家は町になくてはならない存在だ。



2019年4月、小清水ツーリストセンターで「富田美穂 牛の版画展」を開催。そこで発表した板目木版画の大作『701 全身図』(182cm × 273cm)。

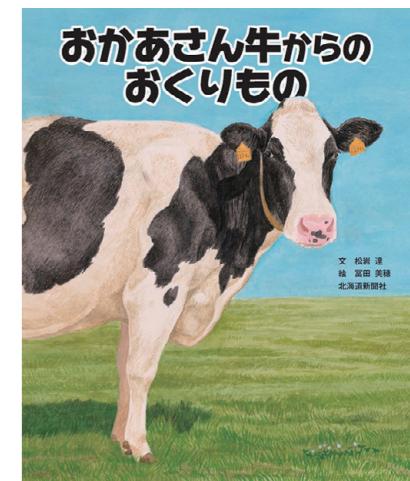
第二章「まちの誇り」をつむぐ

小清水が育む牛とアートの響き合い

2018年に開町百年を迎えた小清水町は、長らくこういう人が頭角を現すのを待っていたのかもしれない。畑作三品の生産地として知られる当地に酪農を手伝いながら木版画や絵を制作している女性がいる。彼女が見つめる対象は小清水の牛たちだ。牛の世話をしながら牛を彫る。注目のアーティスト、富田美穂さんに会いにきた。

Interaction between art and cows raised in Koshimizu

The focus of woodblock artist Miho Tomita, who lives in Koshimizu, is "cows." While lending a hand to dairy farmers and feeling close to cows, she keeps creating surrealism works. In 2019, she held a solo exhibition in Germany. She is an up-and-coming artist of whom Koshimizu is proud.



富田さんが絵を描いた絵本『おかあさん牛からのおくりもの』(文・松岩達 絵・富田美穂 発行・北海道新聞社)